

論文要旨

氏名	長行事 由貴
タイトル (日英併記)	口腔外科手術におけるカフ上洗浄による気管内細菌叢への影響 (Subglottic saline irrigation could reduce the counts of bacterial contamination in patients with oral and/or dental surgery)
論文の要旨 (日本語で記載)	
<p>声門からカフ上空間にたまる分泌液の肺への流れ込みが人工呼吸関連肺炎の発生原因の一つとなる。カフ上吸引付き気管チューブを用いるとカフ上空間の洗浄ができる事に着目し口腔外科手術のカフ上気管内細菌叢への影響を確認するとともに、逆行性の生食水洗浄による気管内細菌叢への効果も同時に検討した。【対象・方法】本研究は九州歯科大学倫理委員会の承認を受けた(承認番号 16-20, 研究期間変更後承認番号 18-19)。54名の患者を対象とした。ビデオ喉頭鏡を用いて経鼻もしくは経口からカフ上吸引チューブ付き気管チューブを用いて気管内挿管を行った。挿管直後, 洗浄前, 洗浄後においてカフ上回収液の塗抹鏡検査及び細菌培養同定を行った。回収液画像を撮影し回収液の画像解析を行った。カフ上洗浄は100ml 生食水を用いた。術後から退院までの体温と SpO₂ 数値と術後体温最高値と術後 SpO₂ 最低値を記録した。【結果】グラム陽性球菌数は挿管後に比べ洗浄前にはグラム陽性球菌数と白血球数が増加し (p<0.001, vs. 挿管後), 洗浄により減少した (p<0.001, vs. 洗浄前)。挿管後と洗浄後の細菌数には有意差はなかった (ns., vs. 挿管後)。手術により検体の透過性は低下し、赤値は高値を維持した。術後肺炎の発症は確認できなかった。【結語】口腔外科手術患者において手術終了時にカフ上気管内における細菌数が増加していた。カフ上吸引付き気管チューブによる100ml 生食水によるカフ上洗浄は術後の気管内細菌数の増加を術前の状態に戻すことができた。手術後は出血, 口腔内細菌, 粘液, 口腔内洗浄水などがカフ上の気管内への混入が発生しており, カフ上吸引および洗浄は術後肺炎の原因を軽減できることが示唆された。</p>	